特別講演

自然とのふれあい

フリーアナウンサー

田中裕子

秋田営林局

平成３年度　業務研究発表会
特別講演　平成３年２月１４日

皆様こんにちは，田中裕子でございます。

こんなに，大勢の皆さんがいらっしゃるということで，ちょっと吃驚してしまったんですけれども。飯豊山の森林生態系の委員会の時に，秋田営林局の方々とお知合いになりまして，本当に気持のいい方々ばかりで楽しく仕事をさせていただきまして，こんなことになってしまったんですが。ついつい楽しさに曳かれて秋田までやってまいりました。お引き受けした後に，ご専門の方々の前で，「自然との触れあい」なんて，なんとまあおこがましい題を付けたものかと，ちょっと気後れがいたしております。

皆様方は，朝から研究発表をお聞きになって，かなり，お疲れになっていらしゃるのではないかと思いまして，少しでもお疲れ休めができれば，また，皆様の気分を変えさせていただければと，そんなふうなつもりで，お話しをさせていただこうかと思います。

私が，「自然との触れあい」と言う題を，岡田計画課長さんからどうですかと出された時に，自分では，実は大変な「自然愛好家」だと自負しておりましたし，「趣味の園芸」などと言う番組を，非常に長いことやっておりましたものですから，そういう意味では，素人の方達の「緑を育てる」とか，「花を作る」とかいう仕事ととても長く付き合いさせていただいたことが，頭にありましたものですから，そういう「題」ならばと，すぐ引き受けてしまいました。しかも，50人位と岡田課長さんは確かおっしゃったもんですから，50人位の方の前でちょっとおしゃべりさせていただいて，「懐かしい営林局の方々のお顔でも拝見しに行こうかな」という感じで来たわけでございますが，少し後悔し始めているところでございます。

私は，ご紹介にもありましたように，ＮＨＫのアナウンサーとして16年間ほど仕事をいたしまして，その後，関西で生活をしまして，それから夫の転勤で山形にまいりました。山形での暮らしも，もう13年経ちました。私は住まいの変わる度に素晴しい自然に出会って，とても楽しい思いをいたしております。特に，山形での生活というのは皆様方の秋田と同じような意味で，自然のたっぷりあるところでございます。非常に満喫をしておりますので，そんなお話しなどもさせていただこうかと思います。

私が，現役のアナウンサーをやめました一番の大きな原因は，「シルバーグラス」のためと言っておりますけれども，目が見えなくなってまいりましたこと。遠いところは非常に良く見えまして，1.5 程の視力があるんですが，なぜか手前の字が見えなくなってまいりました。ニュースを読んでおりますと，数字が１なのか７なのか９なのか分かりませんで，「１，いいえ２，いいえやっぱり１」なんて言うふうになりました。嫌だなと思いまして，テレビの現役を退いたのが数年前になりましょうか。それからは他の名前で言いたくないもんですから，必ず「シルバーグラス」と言っているんです。ですからこの眼鏡を掛けて，お話しをさせていただこうと思います。

ご専門の方々の前で，こんなことを申し上げるのは，何んでございますけれども，最近は，「地球にやさしく」とか，「環境を大切に」とか，「資源を守りましょう」とか言う関心が，全世界的に非常に高まっているわけでございます。

私は，去年ドイツに行きまして吃驚しましたのは，「黒い森」と言われる，あの有名な森が，立枯れになって茶色になっているのを見せられた時です。酸性雨による被害だということで本当に吃驚いたしましたが，それよりも吃驚しましたのは，相当立派なホテルに泊ったんですが，そこのトイレで再生紙のトイレットペーパーを使っているんですね。日本のトイレットペーパーなどというのは，本当にソフトで柔らかくて，気持ちがいいなんて変ですけれども。ところがドイツのホテルでは少し鼠色をしたような，そういえば「戦後こんなトイレットペーパーがあったな」という感じの紙を平気で使っています。それが本当に堂々と。そういう時代になってきているんだなというのがよく分かるのです。どんなホテルに行ってもそうだったというのに吃驚いたしました。

日本の方でも，「買物篭をさげて，お買物に行きましょう」と言う運動が，特に都会では随分盛んになっております。あの過剰包装の問題とかですね。最近は「ポリ袋は結構です」と拒否する方も多くなりましたし，「塗り箸」をやおらハンドバックから出してきて使う方も，随分見受けられるようになりました。　私も，自分の意思表示として，「割箸をやめてみよう」と思いまして，

ハンドバックの中に，チョット素敵な塗りの箸箱を買ってきて入れていたんですが，少し邪魔ですし，そのつど洗わなければならなくて厄介となり，このところやめてしまったんです。そういう方達がとても増えてきております。

つい最近は，ブッシュ大統領が，「フロンガスの全廃」と言うことを打ち出しておりますし，これからは「地球にやさしく，人間の身勝手な生態系を壊すことをやめよう」と言う運動がどんどん増えてくるだろうことを，皆様はもうお気付きであろうと思います。ところが「生態系」という言葉を，今になって考えてみましても，私がＮＨＫに入りまして数年経った頃には，まだ私共は，「食物連鎖」という言葉で，「生態系」を認識していたような気がするんです。「生態系」・「エコロジー（生態学）」と言う学問があるというのは初めて番組を作って知ったような次第です。その時も，「エコロジーてなあに」と言う感じでございました。

私は，たまたま科学系の番組を何本か受持っておりました。ＮＨＫというのは，皆様ご存知のように非常に範囲が広うございまして，「ラジオ」も第一，第二，ＦＭというのもございます。「テレビ」は，教育テレビと総合テレビがありまして，他には，全世界向けのジェネラルサービス，国際放送というのもやっております。勿論，アフリカ向けもありますし，東南アジア向けもあります。殆ど24時間態勢で番組を出しておりまして，アナウンサーというのは，全部の番組に携わっているんです。勿論，ケニヤ語なんて出来ませんから，ケニヤのニュースを流す人は別にいるんですけれども。いわゆる日本語で流すニュースは，全部日本のアナウンサーが読むわけで，東京だけですと 100人以上のアナウンサーがいるんです。その中で，女性は10数人位いるんです。それを手分けして色んな番組をやっているわけです。例えば「家庭番組・報道番組・音楽番組・芸能番組」等があります。

男の人は，そう言う番組にある程度「専門職」みたいに張り付くわけです。スポーツアナウンサーと言うと，大体スポーツ番組ばっかりやっているんですが，女の人は，そういうわけにはまいりませんで，色んな番組を受持しているんです。例えば「趣味の園芸」と言うのは農林水産班がやっていたものです。その中の一つで，私は科学番組を受持ました。「主婦の科学」と言うラジオの

番組とか，「茶の間の科学」と言うテレビの番組とかやっていたんですね。どういうことをやりますかと言うと，「茶の間の科学」と言う番組の場合は，例えば「夏の炭酸飲料は子供達が大変好きだ」とすれば，「炭酸飲料はどういうものなんだろう」と言う番組を作るわけですね。「そうかあの気持ちのいい，おいしい，子供に人気がある味は，炭酸ガスが影響しているんだな」と言う番組を20分位で作るわけです。

何故，その番組のことを忘れられないかといいますと，結論を言わなければならない時に，「なるほど，スカッとさわやかな感じは，この炭酸ガスだったんですね」と言ってしまいました。「スカッとさわやか」と言うのは，コカコーラの宣伝になるんですね。それで大変なお目玉を頂戴いたしまして，新聞にも出まして，「公共放送のＮＨＫが，スカッとさわやかとは何事だ」。廊下で会いますと友達から，「おまえ，コカコーラから何ダース貰ったんだ」とか言われまして，もう「スカッとさわやか」という言葉を聞く度に，未だに背筋がゾゾッとする位です。今だから申し上げますが１本だってコカコーラを戴いたこと無いんです。

話はちょっと逸れてしまいましたけれども，そういう番組を作っていた時にですね，「エコロジー・自然生態系」の話を番組で取上げたんです。当時私は「食物連鎖・植物を動物が食べ，動物を微生物が破壊して，また植物が光合成と言う食物連鎖を」としてしか捉えていなかった「生態系」を，もっと深く番組で取り上げたのです。その時に，「なんて凄いんだろう。地球というのは，そういう大きな自然のサークルの中に組込まれていたんだな」と。

今から20何年か前に，初めて「エコロジー」という言葉と出会い，そして，おぼろげながら「地球」とか，あるいは人間の，自分達が存在しているものの位置とか，そういうものが何んとなく分かったんですね。それで私は，「凄く面白いな」と思いましたが，そのときは，人間がそんなに地球を汚染していることも，環境がこんなに汚染されていることも知りませんでした。どんどん新しい化学物質が出来て，或意味では素晴しいものが出来はじめてきました。「ＰＣＢ」なんて言うのもそうでしたね。それがいま，なんと地球の上には５万種類とも，７万種類とも言われる化学物質が産まれつつあるわけですね。そ

して，その化学物質，それ自体の害というのは，その時には分からなかったわけですね。害虫との闘いだった農作物も，肥料とか，殺虫剤とか「大変便利で素晴しいもの」が出来たお陰で，グーンと生産が増したわけですね。ところがフッと気が付いて見たら「蛍」が消えていた。「ドジョウ」が消えていた。「タニシ」が消えていたとか。その，汚染が始まる頃だったんです。そして便利であったその化学物質が，「複合汚染」まで及ぼしてきたのです。そんなことも分からなかったのは，本当にこの何年か前なんですね。

「フロンガス」が，騒がれておりますけれども，一番最初に，イギリス人がフロンガスでオゾン層が破壊されていた，「穴」を見つけたのが，1970年でしたね。オゾン層に，なんでこんなに穴が空いていいるんだろうと。それを初めて発表したのが1980年だったと言うんです。しかも，私共が全然知らないで，シュッシュッとヘヤースプレーやトイレの脱臭剤を使用したり。それよりもっと怖いのは，冷蔵庫とか，自動車とかの冷却をするために使用していたフロンガスが，70年位かかって，どんどん上昇して成層圏に穴をあけてしまうことです。私達が使用したフロンガスの害が，私達にすぐさま返ってくるなら諦めもいたしましょうが，そうじゃないすね。本当に害が出てくるのは 100年後位だろうと言われているわけですね。その 100年後には，フロンガスによって，穴のあいた成層圏から有害な紫外線が地上に流れて来て，「ガン」が異常に増えると言う。推定だと１年に何万人とか恐ろしい数が出ていますから，西丸震哉さんみたいに「地球はもうすぐ，あと50年位で駄目になってしまう」と言う，そんな恐ろしい話はいたしませんけれども。いずれにしましても，本当に怖いことが起こっています。そんな時代が来ているということがとても恐ろしく思いました。

「自然」と言うと，「緑」と言うふうに申しますけれども，全ての生産者である「緑」を「滅ぼす」ということが，「生態系を破壊していく恐ろしい事」であるとお互いに，人間がだんだん身に泌みて分かってきたように思います。

1990年に「地球の日（アースデイ）」と言うのを決めたんですね。そのアースデイから10年後の 4月22日に向けて，「環境の10年」と言うのがスタートしているわけで，今年が，環境の２年目になるわけでございます。アースデイと

言うことで，もっともっと真剣に，皆んなが「地球」と言うものについて考えていかなければいけないと思います。

私は，東京で生まれ，東京で育ちまして，30代後半まで離れたことはなかったんです。ところが，私が生まれました時とか，育ちました時の東京と言いますのは，まだまだ緑も多くございました。私は，世田谷という所で生まれ育ったんですが，私の家のすぐ傍に「根津山」と言い，根津嘉一郎さんと言う「東武」の創始者でございますが，その根津さんの山，「根津山」は松林の素晴しい山でございました。その山は新宿から10分位の所ですが，そこで小さい時に写した写真なども沢山ございます。多摩川までも15分位で行きましたから，多摩川の河原で「よもぎ」を採ったりもいたしました。それに皆様はちょっと信じられないだろうと思いますが，東京の世田谷という所は，元々「竹の子」の産地でございました。竹薮が多かったんですね。「豪徳寺の竹の子」と言いますと柔らかくておいしかったんですね。練馬区と言うと「練馬の大根」とか，東京の都心の23区の中でも，まだまだ，私達の子供の頃は自然が残されていたんです。

私は，祖父の代から，東京に住んでいるわけでございますけれども，私の父というのは，実は二高から東北大学に行ったものですから，これが大変な「自然児」でございまして，広瀬川でボートを漕いで，蔵王でスキーをしたというような人でございました。そのため子供達にもなるべく「自然を味わせたい」と言う気持ちだけは，人一倍強かったようでございます。自分が医者を志していて，医学部までいっていたんですが，当時は，非常に結核が多かった頃でございますので，御多分に洩れず腎臓結核になってしまい，永年療養生活を送りまして，医者の道は断念するんですね。それで結局，父が目指した，子供のしつけとか，教育とかというのは，いま考えて見ますと，「自然児に育てよう」と言うのだったんじゃないか。私達への，父のメッセージは「自然児」と言うことだったんじゃないかなと，つくづく思うんです。

当時としては珍しく，５人の子供が居りました。土曜・日曜といいますと，父は５人の子供を連れて，近所の川で「飯盒炊さん」。恥ずかしかったですね。誰もそんなことをしていませんから。皆が見るんですね，珍しくて。なぜ「家

で御飯を食べないで，河原で食べないといけないんだろう」と。高校生位になるとそれが嫌で嫌でたまりませんでした。また箱根の山で「うど」とか，「わらび」とか，「たらの芽」とか採っておりましたから，東北にきましたときには，私は，そういう山菜の見分け方というのは，東京育ちにしては良く知っていました。「貴女，本当に東京で育ったの」と，山形の人に言われる位めざとくって，すぐ「わらび目」になったり，すぐ「うど目」になったりしまして，見つけてしまうんですね。地元の人が吃驚する位，「わらび採り」なんかが上手でございました。そういうふうな育ちをしていました。

また毎年，秋になりますと，隅田川から船を仕立てまして，東京湾に行き，「はぜ釣り」をするんです。そしてまた，後でチョット仕掛けをいたしまして「すずき釣り」もするんです。，こちらではなんといいますか。「せいご」とか，「ふっこ」とか，出世魚と言いまして，小さい時から名前が変わっていきますね。ちょうど「せいご」の頃が，秋の頃で何cm位の大きさでしょうか，バター焼にして食べたりすると美味しいんです。

船の上で船頭さんが，「はぜ」はてんぷらにしてくれて，「せいご」はバター焼にしてくれたりして食べさせてくれるんですね。小学校の頃までは大変美味しゅうございましたが，私が中学校に行き出す頃から，だんだん「せいご」が「油っぽいんじゃないか」と言い出したんですね。「はぜ」はどちらかといいますと底の方にいるんでしょうか，あまり油っぽいというのは感じなかったんですけれども。「すずき」は油の浮いている表面近くに居る魚なので，食べられなくなってまいりまして，父は「これはもう危ない」と言うので，私が大学へ行く前位には，「はぜ釣り」は諦めました。すでに東京湾が汚れて来ていたんですね。それまでは「江戸前の寿司」というのは，東京湾で捕れる魚で握りをしていたわけですから魚は食べられたわけなんですが，それも食べられなくなりました。私の子供の頃は，そうゆうふうに「自然児」目指して，東北で学生時代を送った父に育てられましたので，東京で生まれ育っていながら，相当自然には詳しくなっておりました。

私は，とっても花作りが好きでございまして，自分の庭に「チューリップやヒヤシンス，グラジオラス」を植えたり，それがとても見事な花を咲かせるの

です。今程，園芸と言うのは盛んでありませんでしたから，小学生や中学生で花を作るというのはちょっと珍しいと思いませんか。そういう意味では，近所では有名なお嬢さんだったんですね。そこへ祖母が，自分で飼っているニワトリの糞なんか入れるものですから，私は，すごく怒りました。汚いわけですね臭くって。ところが何故か，祖母がこっそり入れると，花は大きく，綺麗に育つのですね。「なる程，こういうことかな」と思いました。自分で花を作りながら，なんとなく自然児らしく育っていったわけでございます。

これまた偶然だったんですけれども，東京で知り合って結婚した人が，山形の人でございます。両親が山形で，本人は戦後，大陸から引揚げてまいりまして，山形で小学校から高校まで過ごしたんです。これが本場の自然育ちですからかなないませんでしたね。例えば，スギの木のてっぺんに巣を作っている「カラスの巣」に，よじ登っていって「雛」を捕ってきて育てたり，「イタチ」に首輪を付けて自分のペット代わりに遊んでいたとか，色んなことを言うんですね。だから自然と遊ぶことを良く知っているので吃驚いたしました。また，私が「いなご」を捕りに，家の前の田んぼに行ってみたんですが，ちっとも捕れないんですね。ピョンピョン飛び跳ねて。これは山形へ来て，初めて知ったんですが，「いなご」と言うのは，昼間お天気の良い時に捕りに行くのではなく，朝日が出る前に，「いなご」がジッとしている時に捕りにいかなきゃいけないのだそうです。捕りに行く時の道具も，竹の先に日本手拭で袋を作ってやるんだとか，あるいは田んぼにいる「どじょう」に「胴・竹の筒」を仕掛けて，中に「身欠きにしん」を入れて，前の晩に仕込んでおいて，次ぎの日に沢山捕ってくるとか，そういうことを実に良く知っているんですね。それを子供たちに色々と教えてくれました。こんなことは「都会の子供には出来ない遊びだな，地方で育って自然の中で育った人でしか知らない」なと思いました。

東京の人は，「虫」と言いましてもあまり知らないですね，「クワガタ」と言いましたら昆虫図鑑で見たことはありましても，「オオクワガタ」と言ったら，いま東京で買うと一匹５万円もするもんですから，知らないんです。そのような所で育っていますから，どれが「コクワガタ」で，どれが「オオクワガタ」で，どれが「ノコギリクワガタ」なんて言うのは知らないわけですね。主人なんかもう，パッと見れば，これは「ノコギリクワガタ」とか，すぐ分かる

んですね。子供達にしてみれば尊敬の的だったわけで，父親というのは「自然界については何んでも知っている」と言うふうに思われているんです。そんなわけで，私は，主人と暮らしてみて分かったんですが，都会で暮らして居る時は「あまり冴えない人だな」と思っておりましたが，自然の中に入ると色々なことを良く知っていて，本当に凄い人なんですね尊敬しました。私共が考える以上に，「自然が人間を育てていたんじゃないか」と言うのが，その時によく分かりました。

話は前後しますが，私は結婚いたしまして，ＮＨＫで頑張っていて，子供２人を育てながら，一生東京で終わるだろうと思っておりました頃，子供達を遊園地とかデパートとかへ連れて行くことは比較的いたしませんで，近所の多摩川に連れて行きましたり，高尾山へ連れて行ったりしまして，自分の子供にもやはり「飯盒炊さん」こそしませんでしたけれども，おにぎりを持って「わらび」を採りに行ったり，「たらの芽」を採りに行ったりして，自然児として育てておりました。

そうしていたら，夫が関西に転勤になりましたものですから，私達もついて行くんです。その時に，私は吃驚したんですが，関西というのは，関東平野のように広くないんですね。関西と言いましても，私は，兵庫県の方に住みましたから，非常に狭い所で，人間がちょうど六甲山を背にして，海を前にして暮らすんですが，とても自然に恵まれた所なんです。そこで，どんなことをしていたかというと，「松茸」を採ったり，神戸の埠頭に行って魚を釣ったりしていたんです。皆様方の所に「太刀魚」なんて魚ございますでしょうか，銀色の太刀のような，蛇みたいな，ああいうのが釣れるんですね。ところが海が汚れているので怖くて食べられないんです。また「オイルボール」と言うんですか，油のボールが波打ち際まできておりますので，釣る楽しみはあっても，食べる楽しみというのがないんですね。淡路島あたりに泳ぎに行きましても，波打ち際にオイルが押し寄せてくる時がありまして，あれが身体に付いたり，水着に付いたりすると，とてもたまらないですね。もう，「瀬戸内の方にまで汚染がきているんだな」と言うことが良く分かりました。

私が関西に行っている間に，一番問題になったのは，「光化学スモッグ」と

言うのが出てきたんです。皆様方はご存知ないかもしれませんが，これはとても恐ろしいんですね。晴れた日，夏の日にサイレンが鳴るんです。そうすると子供達はサッと家の中に逃げ帰ってまいります。そうしませんと，バタバタと子供達が倒れてしまうんです。「光化学スモッグ注意」のための「サイレン」は決まっておりまして，３回短く連続して鳴ると，運動場にいる子供達も，どんなところで遊んでいる子供達でも，家の中に入って来るんです。まるで空襲警報のような恐ろしいスモッグ注意報が出ました。それともう一つ，瀬戸内の海に赤潮が大発生いたしまして，養殖の「はまち」がポカポカ浮かんでくるんです。これは本当に恐ろしい光景でした。

それから滋賀県には大きな湖，「琵琶湖」がある所でございまして，関西の水瓶と言われているんですが，この琵琶湖も非常に水の汚れが問題になりました。そもそも水質汚染の問題で，一番先に立ち上がったのは，琵琶湖近辺の主婦だったんです。そこから「地球にやさしい商品を産みだそう」と言う運動が起こり，そうした運動の火付け役にもなったところです。

昔から有名な「須磨の港」なんていうのは，白い砂，松がありまして，源氏物語の舞台にもなったるわけですが，瀬戸内の島がかすかに見えたりとても綺麗な所です。ところが海水浴場はほとんどありません。また「芦屋の浜」という所には，すっかり高層住宅が並びまして大変なところになってしまいました。

私は，東京，関西と住んで行くうちに，環境が汚染され，地球が汚染されていく恐ろしさを，身をもって感じていったような次第でございます。私はそれでも根っからの自然児で育てられていたせいか，関西でも，自然との接触を充分させていただきました。一番良かったのは，関西という所は，交通網が非常に発達しておりますことで，どこに行くにもとても便利なんです。例えば神戸から船に乗りますと四国でも九州でもどこへでも行けますし，あるいは，山陽道がありますので，朝早く出ますと出雲まで行って「出雲そば」で，昼ご飯なんてことまで出来るわけでとても便利な所でした。また，色んな自然も見せていただき，それなりにとても素晴しところでした。そうした関西の生活は４年間で終わりまして，昭和53年に山形にやってまいりました。

正直なところ，山形にまいりました時には，ちょっと色々，寒さのこともありましたので，大変な所に来てしまったなあという思いがしきりにいたしました。やはり「東北」と言うのはどちらかというと，取っ付きが悪いですね。初めて来た人には，あまり優しいところではないのじゃないかなと思います。例えば，関西ですと本当に愛想がいいですね。タクシーの運転手さんもすぐ話しかけてきますし，スーパーに子供連れで買い物に行きますと，子供を見て「賢いなあ」と必ず声を掛けてきますね。ところが東北の人は，不器用というか損をしていると思うのは，近所のスーパー等に買い物に行きましても，初めての人ですと上から下までジイッと見るんですね。違う生き物みたいに見るんです，「私何かおかしな格好してきたのかしら」と言うような感じになりますね。東京の人は見たくてもチラッと見るんです。それがコツなんです。

考えてみたらそうなんですね。小学校から中学・高校と，皆んなそこに住んでいる人ですから，どこの誰がこの店に買い物に来ているか，皆んな知っているんです。どこの誰は誰と結婚して，どこの誰の兄さんとは同級生で，という具合で，それが分かるのに数年掛かりました。何んであんなに見られたんだ，何んであんなに感じが悪かったんだろうと。それで，ジイッと見られて店を出るか出ないかのうちに「あれ，誰だべ」と，もう話しているんですね。聞こえちゃうんです。そっと話すということもしないんですね。「今度越して来た，あそこさ来た人だべ」と言って，皆んなで噂話しをしているわけです。もうまいりましたね，あれには。私は，「こんな所で生きて行けないんじゃないかしら」と思いました。

関西から転勤してくる時に忠告されたそうですが，「同じ支局の人の奥さんがやっぱり東京の人で，山形に連れて来て，３年でノイローゼになって転勤願いを出して帰ったそうですよ。奥さんも気をつけた方がいいよ。東京の人は山形では生きていけないよ」と。主人も相当に応えたらしいですね。それでも，主人は，私が，まあ踏んでも蹴っても大丈夫だというのは知っておりますから，「うちのは大丈夫だ，どこへ連れて行っても」と連れて来たみたいです。ところが，私も，やっぱり１～２年はこれで神経がだいぶまいりましたね。「このまま生きていけるだろうか」と。それと言葉の面もありました。

山形では，「古語」が残っているんですね。古い言葉がそのまま残っているんです。なにしろ三方が山に囲まれて一箇所だけ海に開かれていたんですね。山の形，山形県ですね。確かに外との行き来は，「海」を通じてしかなかったんですね。海の航路というのが昔は表玄関だったんですよ。だから山形と言うのは，実は，京都と直結してたんです。それが山形の人の誇りなんです。それで「京都風だ」と酒田や鶴岡の人は自慢しますが，私は関西に長くおりましたから，「京都の人が怒るんじゃないかな」なんて思うこともあります。やはり「陸」の交通が出来るまでは，山形というところは海の表玄関で北海道と京都を結んでいたわけで，そういう意味では，古い言葉が沢山残っているんですね。例えば「おめえ」と言うのは，「おんまえ」ですから古語なんですね。とても良い言葉なんですね。それに「様」までつけたら，「おんまえ様」なんですね。ところが「おめえ」と言う言葉は，標準語になりますと，非常に悪い言葉なんですね。八百屋のおばさんなどが「おめえこれ食うが」とこうくるんですね。私は，「おまえ」と言われたことがまずなかったものですから，「おめえこれ食うが」と言われたときには，あまりのショックに返事ができなかったんです。でもよく考えてみますと「食う」という言葉は別に悪くないですよね。また，「貴様」なんて言うのも，本当は「貴い様」ですから良い言葉だったんですね。ところが，今は「貴様」と言うのが，逆に悪い言葉になっております。そういう意味で，山形には古語が沢山残っておりますが，これに慣れるまでは大変でございました。

子供が小学校へ行った時も，先生の言っていることが全然分からないで帰って来るんです。子供に，「あなた同じ日本語なのよ，良く聞いてごらんなさい分かるから」と言っても分からないと言うのです。確かに成績は落ちました。例えば「よったり，こさこい」と言われたそうです。私なら分かりますね。「よったり」と言うのが４人と分かりますから。小学生に「よったり」と言う言葉。今は聞きませんよね。きっと，そこに４人居たんですね。先生に言われて，うちの子供だけ何のことか分からないから立っていたら，また「よったり，こさこい」と言って怒られたそうです。それで友達に聞いて，やっと分かったらしいです。「よったりと言うのは４人なのよ。こさこいと言うのはこっちへこいということなのよ」こう言う説明でした。大笑いしたんですが，今度は私も驚きました。「かねたていい」，分かりますか。秋田の方でも，そういうふ

うに言いますでしょうか。子供が紙に，「かねたていい」と書くんです。私達に，「なんだか分かる？」と聞くんですが分からないんですよ。そしたら，「食べなくともいいが，かねたていいなのよ」とこう言うんです。これは可哀相だなと思いましたね。うちの子供達は，「山形って，どうなんかな」と言って来たんですね，関西弁で。

でも私は，山形へ来て素晴しかったと思いますのは，はじめて小学校のＰＴＡの授業参観に行きました時です。新興住宅地に出来た小学校だったんです。６月に行きましたので，周りが全部「青い田圃」でした。考えてみますと，「山形，秋田，青森」なんて自然と関係のある県名なんでしょうね。青い森，秋の田圃，山の形，自然と非常に密接な，自然と触れあっている県名は東北でもこの位ですね。昨日の夜も寝ながら色々と全国の地名なども考えてみても，この３県が一番自然とのふれあいには相応しい県名だなと思いました。まさに「田圃」だったんですね。その涼風の気持ちの良いこと，二階の教室だったんですが，もうめまいがしそうでした気持ちが良くって。うちの子供もとても気持ちが良かったんでしょうね。

冬になって雪が降りました。東京・関西と，子供達を連れて歩いていましたが，「雪」はちょろっと降ることはありましたけれども，山形の雪は，霏々として降るとか，深々と降るとかなのです。本当に雪が降った日，その時は，うちの息子は教室の外から目が離せなかったそうです。それで先生からお手紙を持って帰ってまいりました。「幹也君は，今日は私の顔を１回も見てくれませんでした。一日中窓の外を見ておりました。」と書いてあったんですね。それで，私は，何か悪い事をしたのか，何か起こしたのかなと思って，「どうしたの今日は」と聞いたんです。そしたら，「雪が降ったんだもの，ああ雪は綺麗だった。上からどんどん降ってくるの」と言うんですね。もう，あまりの素晴しさに，一回も先生の顔を見なかった。話も聞こえなかったんですね。皆さん達も，私も，毎日雪が空から落ちてくるといやになりますけれども，息子は，その時はやっぱり目が離せなかったんですね，素晴しくって。

私の息子は片道45分かかって，山の裾を廻って小学校に通ったんですが，その間，有名だったことは「どぶ」に何回も落っこちるんです。なぜかって言う

と，珍しいものが飛んできたり，止まっていたり，また，珍しい花が咲いていたりすると，それに見とれて，毎回のように「どぶ」に落ちて帰って来る子供でした。それ位目が離せなかったですね。都会の「どぶ」は蓋をしてあるんですが。

私は，山形に来て，「本当の自然とは，こういうものだな」と言うことが，良く分かりました。これだけ子供達を夢中にさせるものというのは，パソコンでもなければなんでもないんです。「本当に自然なんだ」と言うのが，子供を見ていて分かりました。そんなわけで，うち子供たちは，「虫」とか，「花」とか，「木」とかが大好きでございました。私は，「虫」と言いますと，よく食堂に居る小さな「ゴキブリ」も「スズムシ」も同じに見えて仕様がないですね。今度よく見て下さい似ています。私は，東京で甥っ子がキャンプに行く時チョット頼まれて，水槽に入れた，スズムシを預かったことがあったんです。「きゅうりを少し取り替えてくれれば」と言われて，１週間預かったんです。ある日帰って見ましたら，水槽がチョット開いていたんです。そのため家中にスズムシが逃げたんですね。私は泣きながら，そのスズムシを集める位，虫が嫌いでした。もう，私にとってはスズムシもゴキブリも虫という種類でしかないんです。

ところが，山形に来て見て，子供が持ってくるズボンを洗濯機に入れて，濯ごうと思いますと，時々上に色んなものが浮いてくるんですね。「蛙」なんかがおなかを開けていたり，色んなものがポケットに入っていたんですね。だんだんそういうのも平気になってきたんですが，遂には「カブトムシ」の幼虫を捕りに行くと言うんですね。私にもついて行ってほしいと言うので，自転車に乗って，何んと，１時間半も掛かる製材所の跡地と言う所に行って来たんですね。製材所の跡地にはカブトムシが居るんですね。掘ってみましたらこれが「ウジムシ」みたいなんですね。もうめまいがする位，気持ちが悪かったんです。でもそんなことも言っていられませんで，子供と一緒に十何匹というカブトムシの幼虫を捕ってまいりまして，大きな水槽に製材所のクズとか入れて育てました。蛹室を作って，次ぎの年カブトムシになるまで，子供と一緒に観察をいたしまして，それを絵日記にしました。しかも生まれたカブトムシと外から捕ってきたカブトムシの個体差を色々調べたりでするんです。ところが，蛹

室が小さくなってしまうものですから，蛹室と蛹室がぶつかりあうらしくて足が悪いカブトムシとか，正常に育たないのがいくつかいるんですね。その頃，私は子供より夢中でございました。そのカブトムシの背中にマジックで番号などくっつけて見たりしまして，どんな食べ物が一番好きかとか，どのように飛ぶかとか，色ろんなことを調べまして，遂に山形市で金賞を受賞したという，半分は母親が観察したんですけれども。その頃には，私も，すっかり「カブトムシ」の通になっておりました。

今度は，娘が植物採集の鬼と化しましたが，子供の植物採集というよりも，私の方が非常に凝りまして，夏休みの後半はほとんど連日のように，県立博物館に通いまして，博物館の先生に呆れられる位に頑張りまして，姉弟とも金賞をとりました。なんか私が取ったみたいだったんですけれども。それで子供達は研究発表会に招かれて発表したりしました。虫としか分からなかった私も，もうしっかり本物の自然児にかえって頑張ったわけでございます。

東京に住んでる時も，西宮に住んでおりました時も，周辺には学習塾が沢山ございました。小学校３年生になりますと，「どこの塾に行きますか」と先生に聞かれます。「行かせなければいけませんか」と言いますと，「お母さん塾は休みませんよ」と言うんですね。「お母さんは病気もしますでしょう。お客さまも来るでしょう。やりたくない時もあるでしょう。お母さん，毎日必ず同じ時間に勉強を見てあげられますか。小学校６年生の数学までちゃんと教えられますか」と先生がおっしゃるんですね。それで「小学校４年生から行ったんではもう良い塾は無くなりますよ」と。良い塾は，３年生から生徒を取ってしまうんですね。自信がないわけです。「４年生，５年生になってその塾に入れたんでは，１年や２年ではとても間に合わない。小学校３年生から良い塾に入れてもらいたい。それに人数制限があるから，３年生から入れてもらいたい」と言うんですね。私が，もしあのまま関西に居たとしたらば，多分小学校３年生から塾に入れて，一生懸命お尻を叩いて，学校が終わるとそのまま塾にやっていたのでは。そしてまた私の子供の学区は，灘中学，甲陽中学という関西の名門がすぐ近くでございましたから，そこに入れるべく頑張っただろうと思うんですね。それが，息子が小学校２年生の時に，山形に転勤になりましたので，ほっとしたような，がっくりきたような「ああ受験戦争から一抜けた」という

思いで山形にまいりました。親子共々に野山を駆け回って，「カブトムシ」にうつつを抜かして，植物採集をやって。家の中に蛇が入り込んできたり，庭に巣箱を作ったり，息子が「どぶ」に落っこってきたり，そんなことをして，全く受験勉強は忘れてしまいました。そして親子で「月山」に登ったり，「鳥海山」に登ったり。本当に，こんなに自然との触れ合う生活ができたということは，素晴しいことだったな」と，それで自分を納得させておりました。

ところが，うちの人も生物が物凄く得意になったわけです。おかしな話ですが，同じ山形に住んでいましても，「ジヤガイモの花はいつ咲きますか」とか言っても分からない人が一杯いるんですよ。どんなに自然の中で育っていても，自然に対して目を開いていないと，「お米はいつ花が咲くのか」とか，「落下生はどのようにして実を成らせますか」とか，そういう理科の問題が出ても分からないですね。これは本当に恐ろしいなと思いました。ところが私は，「趣味の園芸」の番組をやっておりましたので，野菜作りから，盆栽作り，蘭作りと。あの番組を，ご覧になっていらっしゃる方は，お分かりと思いますが，樹木の消毒から園芸と名の付くものは，何でもやるんです。果樹の栽培だってやるんですよ。私は狭い庭に「サクランボ」を２本も植えまして，皆んなに驚かれたんですが，何でもかんでもやってみようと。今まで番組でやったことは何でもやってみようと頑張ってみたんです。山形へ引っ越して来て，一番先にやったことは畑作りなんですね。今までは番組でしかやったことがないし，自分では，花しか作ったことがないので「畑」を作ったんです。狭い庭に十何種類も植えました。ちょっと笑われてしまいそうですが，これは素人の悲しさだったんです。でも最初の年は大豊作でございました。「トマト」などうやって食べようかという位，10本も植えましたら４人家族じゃ凄いというのはお分かりですね。最初の年で土も良かったです。「トウモロコシ」なんかも食べきれない位できました。これがまた馬鹿な話なんですが，近所の農家のおばさんが，「良くできたこと」と褒めたのを真に受けまして近所に配ったんです。周りは皆さん農家でございましたから，今思うと本当に冷や汗ですね。でも「趣味の園芸」なんていうのは，肥料の配合とか，成長ホルモンの使い方とか，並大抵じゃないわけで，頭では色ろんなことを知っているんですね。ですから，全部割り出してやるものですから凄く上手にできたんです。紫色の「タマネギ」などは，ちょっとご近所の農家では珍しかったようです。私は近所の農家中に，

「トウモロコシ」と「タマネギ」を配って歩きました。そのお返しが凄かったですね。もう山のように「エダマメ」がきたり，「ジャガイモ」がきたりして，私も本物の農家になったように嬉しかったんです。まあそれでも輪作はいけないと知っておりましたから，狭い庭でも，今年はここに「トマト」を植えたから，来年はこっちになんてやりましたが，しょせんは同じ金魚鉢みたいな所で作っていますから，連作障害もすぐきまして，去年あたりからは，何を植えても駄目でございます。それですっかり諦めまして今は広大な農園を，女２人で借りまして，トラクターまで入れまして，手間の掛からない「ジャガイモ」とか「サツマイモ」とかを作っておりますが。結局は，これも素人の悲しさでですね，野鼠との闘いに苦慮しておりまして，ほとんどの作物が鼠にやられております。今年はどうしようか，もう辞めようかと思っているんです。何せそのくらい畑仕事を頑張っておりました。

そんなんですから，小学三年生のクラスで「家が農家の人は手を上げて」と言うと，うちの息子だけ悠々と手を上げてたそうです。私は当時まだニュースキャスターなどやっておりましたから先生ビックリしたそうです。「農家の人ですよ，家で畑を作っている人ですよ，田圃を作っている人は手を上げてごらんなさい」と言ったそうです。今でも，山形ではちょっと市内の小学校でしたら，せいぜい農家の人はクラスで一人か二人なんですね。そんな中でも息子は，堂々として手を上げて降ろさないんですね。先生は知ってるわけです。「幹也君の家では，畑を作っていますか，田圃を作っていますか」「ハイ，畑作ってます」と言って聞かないそうでございます。それ以来有名で農家の息子と言うことになってました。その位，私が頑張りましたものですから，息子は段々植物好きが嵩じまして，色ろんな細かいところに入り込んできまして，最終的には「モウセン苔」に凝りまして，オーストラリアの「モウセン苔」とかですね。最初は食中食物だったんですね，食中食物から段々「モウセン苔」一本に絞られてまいりまして，「モウセン苔」ばかり育てるようになりまして，外国から種を取り寄せては育てておりました。そんなわけで，全国統一生物テストなんていうと，いつも全国で五番目位に名前が出てくる位に詳しくなりました。私は，これは山形のせいだと思います。

もう一つ何よりも，私が誇りにしている面白い話しがございます。「全国高

校ウルトラクイズ」と言う，高校生に大変人気のあるクイズがございます。全国で２５万人参加すると言われておりますが，丁度うちの息子が高校二年生の時に山形県の代表になりまして，何と全国で優勝してきてしまったんです。その時にはですね，植物の問題が出たり，動物の問題が出たりいたしますと絶対に負けないと頑張っておりました，その時，秋田高校も凄いなと思ったのを覚えております。全般的にクイズは，東高西低と言われているんですが，東が非常に強いんですね。と言うのは「生物の問題とか，一般常識」とか，そういうものが多いですね。山形県は，実はいままで１０回位の大会の内ですね２回優勝しているんです。宮城県も２回優勝しているんですね。なかなか西の方の高校生は優勝できないんです。

この時は，富士山に登って決勝戦をいたしました。私は，東北の子供は素晴しいなと思ったのはですね。三人一組のクイズで，三校が決勝戦に残ったんですが，一校が奈良の東大寺学園と言う受験校です。もう一校は埼玉県の方の高校と山形東高校だったんですけれども，富士山に登った時にですね，もう奈良と埼玉の子供たちはフウフウになってしまって，もう既に体力を消耗しきってたそうでございますが，山形の雪国育ち，粘り腰ですね。ササニシキを食べておりますし，負けませんねそうゆう事では，雪道で雪だるまのようになって，高校に３年間通う子供達ですから，そんじょそこらの西の方の人達には体力でも負けないんですね。そして運良く富士山のてっぺんで自分達の校歌を，優勝校の校歌を歌って，意気揚々と帰って来たわけですね。そうしたら全国に散らばっております山形東高校の卒業生から、沢山の祝電を戴きました。自分達の校歌を何十年振りに関西で聞いた。九州で聞いた。感激したと。これは素晴しいことでしたね。

そしてまた，富士山から戻ってくる時が凄かったんですね。「山形，お前たちは早過ぎるから一番最後から降りてこい」と言われてですね，スタッフも全員降りて，高校生も全員降りて，しばらく経ってから，「お前たち出発していい」と言われて出発したそうでございます。優勝の嬉しさもありますし，ピョンピョン飛び跳ねるように，富士山から走って降りてきてしまいまして，やはりトップで降りてきてしまったそうです。私はそれを聞いた時に「ああ良かった。東北は，山形は，本当に子供を育ててくれたなあ」と言う，そんな思いが

いたしました。私の子供は２人ともそんなわけで，１回も塾に行かせることもございませんでしたし，ちょっと通信教育をさせたことはございますけれども，それも自分でやりたいといっただけでございますが。それにしても本当にお蔭さまで息子は東大に行っております。私は良くこう言うんです。「一緒になって野山を駆け巡っていたわけですが，その野山が，あの子達に，粘り強さとかですね，そこから出発する。どうやったら世の中の面白さみたいなものを自然の中から自分で発見するか。人から与えられた力ではなくて，自分がその中から見つけて行ってくれたのではないか」と思っております。

それからもう一つ，「自然て凄いな」と思うのは，私は「今日の健康」という番組をやっていたんです。これは本当に人間の身体の病気のことを主にやる番組だったんですが，私が「今日の健康」の中で担当するのは，どちらかというと婦人科関係ですね，子宮ガンとか，乳ガンとか，女性の病気，あるいは結婚とか，妊娠とか，出産とか，そういうようなものをやるわけなんです。私は結婚はしておりましたけれども，子供は居ない頃で，お産の経験がない頃に，いろんな出産関係の番組などをしなければならなくなりました。大学出たての若いディレクターと二人で，その婦人科のお医者さまのところに打ち合わせに行くわけですね。そうすると，先生はお医者さまですから，平気で「じゃ，ちょっとフイルムがありますからそれを見ながら説明しましょう。」なんて言いまして，お産の医学的なフイルムを見せられるわけですね。私は，物凄いショックで。自分はまだ妊娠の経験もありませんでしたし，ましてや，先生の前ならともかく，若き男性と二人でそれを見せられる。いよいよ子供が出るシーンなんて思わず目を伏せて見られなかったんです。ところが，一緒に行った男性のディレクターは，本当に何のてらいもなく，普通の顔をして出産のシーンも見ますし見終わった後も実に適切な質問を先生にするんですね，それで，だんだん親しくなるにつれて，色々と彼のことが分かるようになって，話を聞いてみましたところが，「僕は，動物を沢山飼っていた」と言うんですね。「山羊も飼ったし，勿論犬も猫も飼ったし，兎も飼った。だからお産はみんな僕が手伝っていた」と言うんですね。小学生のときからお産には立会っていて，「猫のお産もやったし，犬のお産も見ていた，人間のお産も同じですよ」と言われた時に，私はとても恥ずかしかったし，「ああそうか，すごいな。」と思いました。

いま性教育がどうのということが言われます。私も親ですから色んなことを考えますし，上の子からは，試験管ベビーがちょうど問題になった時に「ママ，試験管ベビーじゃない，普通のお産はどうするの」「どうやって子供ができるの」と聞かれた時に，絶句してしまったんですね。私自身は，花とか，植物とか，虫とか，鳥とか，そういうものに対しては，子供達に他の人以上に経験させたと思いますし，一緒にやったんですけれども，大型の動物というのは，やはり住宅事情，東京，大阪と住んでおりましたから。せいぜい飼って鶏で，マンションで飼いまして凄く怒られました。臭いですね，鶏ってのは，オスだったもので，朝からコケコッコーとやられて。本当に殺すに殺せなくて泣いた覚えがあるものですから。ちょっと大きいものを飼ったのはそれ位ですね。やっぱり子供を育てる時には，花とか，木とか，そういうものだけではなく，大型の動物を飼ったりすべきでしょうね。動物というのは，「同じ宇宙船地球号に乗っているそういう仲間なんだ」と言うことを，小さい時から勉強させていかなければいけないんじゃないかなと思います。そういうところから，何か子供の自然に対する理解が生まれるわけで，本で読んで，「ジャガイモ」の花は何月に咲く，「サヤエンドウ」の花は何月に咲く何ていうのじゃ駄目なんです。教科書で覚える，そんな触れ合いじゃいけないような気がしてならないのです。

私は，いま一番後悔しているのは，山羊とまでいかなくても，犬とか，猫とか，その位の動物を，子供に飼わせてやりたかったことです。というのは，私の父が非常に犬好きでございまして，秋田県の大館からいつも犬を取寄せておりまして，「秋田犬」を飼っていたんですね。いつも上野駅に生後何日かという仔犬を取りに行きました。あの大型の犬を多い時は３頭も飼っている時がございました。つい先日も，大館の「秋田犬」のポスターが，あんまり可愛いいので取り寄せまして，母の実家などで飾っております。犬がとても好きでございまして，それも何故か「オスの犬」ばっかりで，「メスの犬」を飼ったこと無かったですね。父が死にましてから，たまたま実家の方で，お座敷で飼う「プードル」を，それも「メス」を飼ったんですね。その犬に生理があるなんて当り前のことなのに，「オスの犬」ばかり飼っていて，誰も知らなかったんですね。出血しましたときには，家中大騒ぎになりまして，医者に連れて行って笑われたんですね。そういうことって沢山あるわけですね。

いま子供達が，非常に残酷に「いじめ」をするのもですね，人間を含めて，生き物と言うのはどういうものなのか，知らな過ぎるんですね。そういうことから，色んな門題が起きてきていると思うんです。「自分が大きな生態系の中の一つである。しかも，本当に生態系を生産している植物がいなければ生きて行けない。あるいは，微生物がいなければ生きて行けない動物である」と言うことを忘れているところに，いまの色んな矛盾みたいなものも来ているんじゃないかなと言う気がしてならないんです。

いま地球の人口は，「地球船・宇宙号に乗っている人間」と言う生き物だけの数字ですと，５３億人の人間が生きているそうでございます。ちょうど４年前になりますか「日本女性会議」と言うイベントを山形で致しました時に，私は，「科学部会」というのを仕切った事があるんですが，人間てすごいんですね。何月何日に，地球の人間が５０億人を超すかと言う計算ができるわけですね。だって毎日数えるわけにいかないんですから。オリンピックまであと何日と言うわけにいかないんです。ところが，お偉い方たちが計算をなさってですね，「世界の人口が５０億人を超すのが，１９８７年７月１１日だ」と言うふうに言われていたんですね。もう４年程前になりますが，確かに５０億人を超したんですね。それから４年後に５３億人を超してるんです。全ての環境汚染と言うのは，この人口の増えてきたことから始まっているんですね。「ノアの箱船」ではございませんけれども，この大きな地球船・宇宙号がどうやって生き残れるか考えさせられます。私達がですね，その５万種とか，７万種とか言う科学物質を，便利なだけに作りだしていったんですね。地球全体が，もしかしたら１００年後に滅んでいってしまうかもしれないんですね。したがって，生態系の一番大事な生産者である「緑」と言うものが，どんな大きな影響力を持っているかと言うことを，私達は，もう一度考えていかなければならないような気が致します。

その「アースデー１９９０年・日本」では，地球を救うために「１３３の方向」と言うのを打ち出していたんですね。これは色んなことを言っているんです。本当に私達のできる，例えばですね「廃棄物を減らしてリサイクルをしよう」と良く言われてますね。すると包装紙の問題とか，物を忘れないようにしようとか，先程のトイレットペーパーの話もそうですし，あるいは「エネルギ

ーの問題」について言えば，スイッチをこまめに消しましょう。歯みがきしている時には水を出しっ放なしにしないようにしましょう。冷蔵庫の温度は必要以上に低くしないようにしましょうとか。また「食品」については，なるべく有機栽培したものを食べましょう。季節はずれの物を食べるのはよして，夏の野菜は夏だけにしましょうとか。あるいは「交通機関」でも，なるべく歩いたり，自転車にしましょう。車は乗らないようしましょう。乗ったとしてもスピードは経済速度で走りましょう。もう，微に入り細に入り言っています。あるいは「家事」などに使用する洗剤も気を付けましょう。ラベルをよく見て自分ですっかり納得する製品を選んで買いましょうとかですね。あるいは絶滅の危機にある動物で作ったものは買わないようにしましょうとか。私は，なけなしのお金をはたいてですね，毛皮のコートなど買ってみたんですが，最近は着られませんね，もう恐ろしくって。毛皮のコートなんて着るというのはもう罪悪感だって言うんです。それから「ベッコウ」で出来たものですとか，ベッコウ縁の眼鏡なんか。いま７０万から８０万円するそうですが，そうゆうものはなるべく使用しないようにしましょうとか。あるいはで苗木を植えて世話をしましょうとか。すごく大事なことなんです。緑を増やして行くと言うことは。「緑」は二酸化炭素を吸収する能力が有ります。日本の緑地はですね，いま地球の人間の呼吸から含めて，３分の２は吸収する能力があるそうですが，もっともっと，緑を増やして行くと美味しい空気が吸えるわけでございます。

それから自分自身の考え方を変えて行こうと言うんですね。どういうことかと言いますと，新しい物好きはよしましょう。新しいとか便利だからと買ってはいけませんよとか。やみくもに生きるより，人生の目的を決めたらどうですか。本当の人間の豊かさを追求する生き方をして見ませんかとか。美しいものや，目を引くもの，利用価値のあるものだけでなく，全ての生き物を大切にしましょう。ストレスを減らす努力をしましょう。人生を目一杯に暮らしましょう等，ここまで言っているんですね。１３３の指標は。

私ども考えてみますと，そういった身の周りの小さな積み重ねがですね，その「地球」や，自らの「命」を長らえて行くと言うことにつながって行くような気がするんです。ですから，フランスのクレスソンさんがおっしゃったようにですね，もう蟻のように働くのはよして，本当の豊かなキリギリスのような

気持でですね，生きて行くことも考えたらいいんじゃないかなと，こんなふうにも思っております。私は，はからずも１３年前に山形に来てですね，アアー抜けたと思ったことがですね，子供たちにとっては，人間を育ててくれて，自分がいまやってる生活が，実は，宇宙船・地球号を，沈ませないための生活であってほしい。私たち，皆さんたち，東北の人たちが，その見本となてしているような気がするんです。お互い努力しましょう。これを持ちまして終わらせて戴きます。